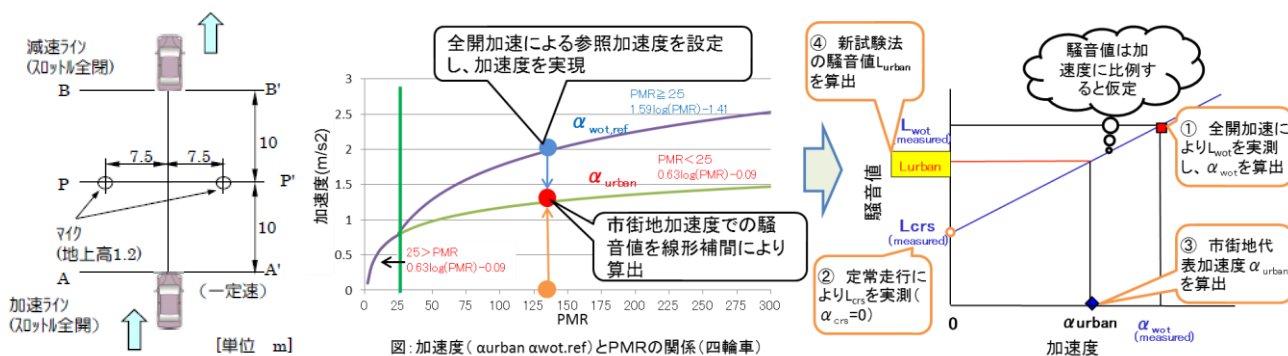


加速走行騒音試験法（乗用車及び小型商用車①）

M1、N1 又は技術的 maximum 許容質量が 3.5 トン以下の M2 に該当する車両

（いずれも PMR が 25kW/t 以上のものに限る。）



【試験概要】

1. 予備試験

一定速度で進入し、車両基準点から AA' ラインに達したら全開加速し、車両後端が BB' ラインに達したらスロットル全閉する。

基準速度は、 $V_{pp} = 50 \pm 1 \text{ km/h}$ とする。

全開加速度 (α_{wot}) を測定し、PMR の関数として定められた全開加速による参照加速度 ($\alpha_{wot,ref} = 1.59 \log(PMR) - 1.41$) を実現できるギヤを選択する。

2. 全開加速走行騒音試験

1. で選択したギヤで全開加速走行騒音試験を実施し、AA' と BB' 間で最大となる騒音 (L_{wot}) と全開加速度 (α_{wot}) を測定する。

測定回数は 4 回で、左右それぞれの平均値を算出し、高い側の騒音値を採用する。

3. 定常走行騒音試験

選択したギヤで一定速度で進入し ($50 \pm 1 \text{ km/h}$)、その速度を AA' と BB' 間で維持し、最大となる騒音 (L_{crs}) を測定する。

測定回数は 4 回で、左右それぞれ平均値を算出し、高い側の騒音値を採用する。

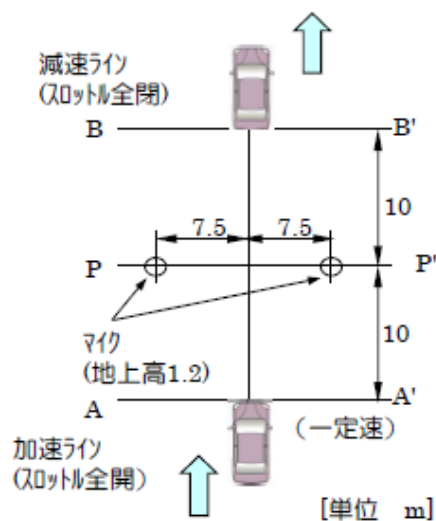
4. 市街地走行時の代表的な加速度における騒音値 (L_{urban}) の算出

全開加速走行時の騒音値 (α_{wot} , L_{wot}) と定常走行時の騒音値 (L_{crs}) から線形補間により、PMR の関数として定められた市街地走行時の代表的な加速度 ($\alpha_{urban} = 0.63 \log(PMR) - 0.09$) における騒音値 (L_{urban}) を算出する。

加速走行騒音試験法（乗用車及び小型商用車②）

M1、N1 又は技術的 maximum 許容質量が 3.5 トン以下の M2 に該当する車両

（いずれも PMR が 25kW/t 未満のものに限る。）



【試験概要】

1. 全開加速走行騒音試験

一定速度で進入し、車両基準点が AA' ラインに達したら全開加速し、車両後端が BB' ラインに達したらスロットルを全閉する。

基準速度は、 $V_{pp'} = 50 \pm 1 \text{ km/h}$ とする。

測定ギヤは、PMR の関数として定められた加速度 ($\alpha_{urban} = 0.63 \log(\text{PMR}) - 0.09$) を実現できるギヤを選択する。

AA' と BB' 間で最大となる騒音 (L_{wot}) を測定する。

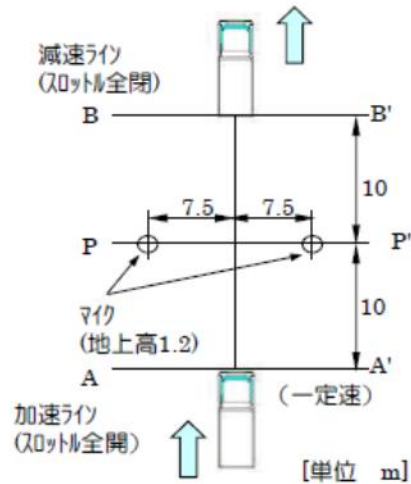
測定回数は 4 回で、左右それぞれの平均値を算出し、高い側の騒音値を採用する。

2. 市街地走行時の代表的な加速度における騒音値 (L_{urban}) の算出

$L_{urban} = L_{wot}$ とする。

加速走行騒音試験法（中・大型商用車）

技術的最大の許容質量が 3.5 トンを超える M2、M3、N2 又は N3 に該当する車両



【試験概要】

1. 全開加速走行騒音試験

一定速度で進入し、車両基準点が AA' ラインに達したら全開加速し、車両基準点が BB' ライン +5m に達するまでその状態を維持する。

基準速度は、 $V_{BB'} = 35 \pm 5 \text{ km/h}$ とする。

測定ギヤは、脱出エンジン回転数 ($n_{BB'}$) が M2 又は N2 の場合は $0.70S \sim 0.74S$ 、M3 又は N3 の場合は $0.85S \sim 0.89S$ を満足するギヤを選択する (S は、最高出力時の回転数)。

AA' と BB' 間で最大となる騒音 (L_{wot}) を測定する。

測定回数は 4 回で、左右それぞれの平均値を算出し、高い側の騒音値を採用する。

2. 市街地走行時の代表的なエンジン回転数における騒音値 (L_{urban}) の算出

$L_{urban} = L_{wot}$ とする。